

香川県の地震

2021年4月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1
香川県の地震表（震度1以上）	・	該当地震なし
震度分布図	・	該当地震なし

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会 (注)

評価検討会調査結果（令和3年5月12日）	・・・	2
----------------------	-----	---

(注) 直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

地震活動図「震央分布図、M-T図（地震活動経過図）」について	・・・	3
--------------------------------	-----	---

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

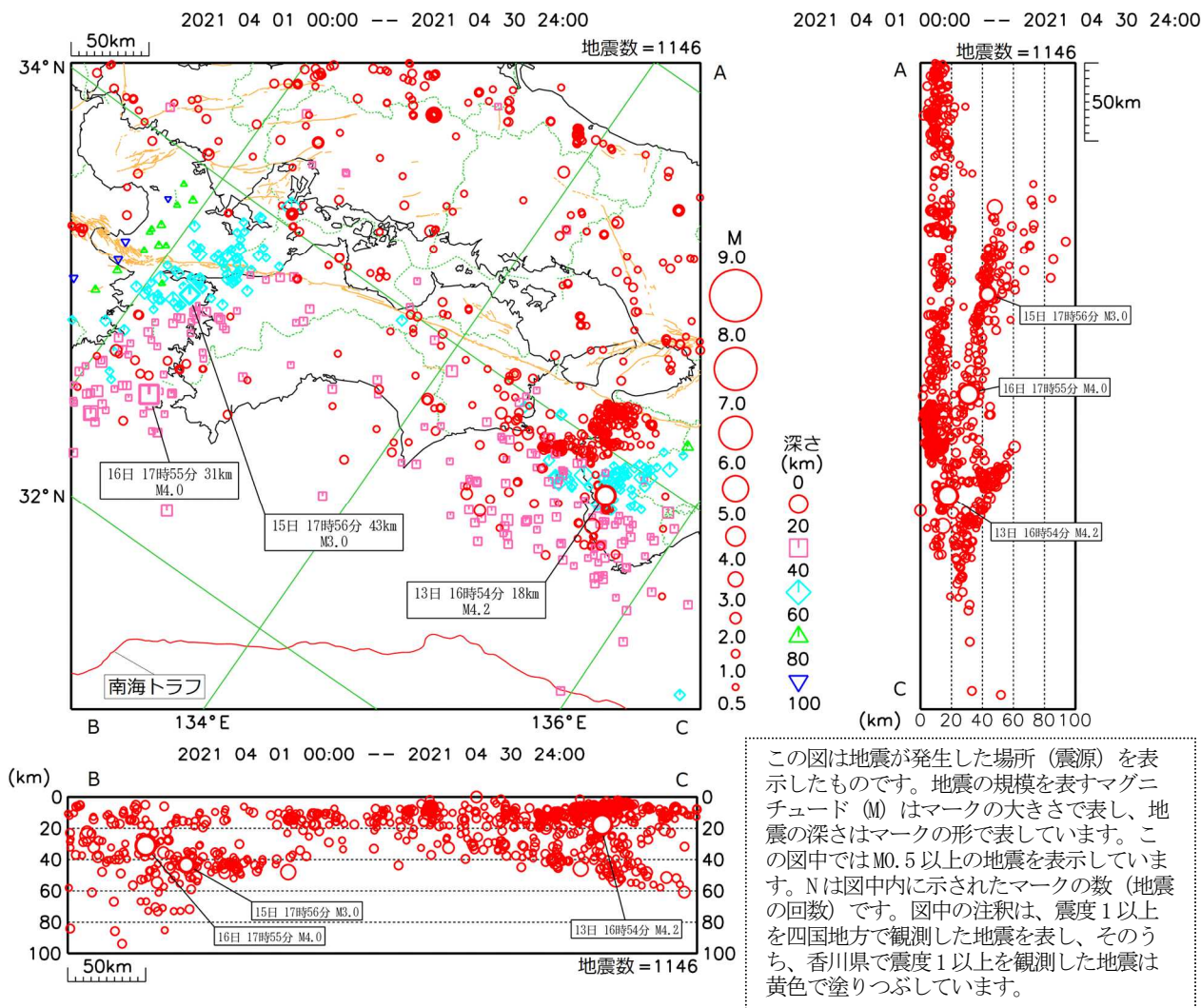
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2021年4月

◎震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は2回）。

四国内で震度1以上を観測した地震は、次の3回でした。

13日16時54分 和歌山県南部の地震（深さ18km、M4.2）により、徳島県徳島市・鳴門市・阿南市・那賀町・美波町で震度1を観測しました。この地震では、和歌山県田辺市・日高川町で震度3を観測したほか、東海地方・近畿地方で震度2～1を観測しました。

15日17時56分 豊後水道の地震（深さ43km、M3.0）により、愛媛県八幡浜市・大洲市で震度1を観測しました。

16日17時55分 日向灘の地震（深さ31km、M4.0）により、愛媛県宇和島市・西予市・松野町・愛南町、高知県宿毛市・大月町で震度2を観測したほか、四国地方・九州地方で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

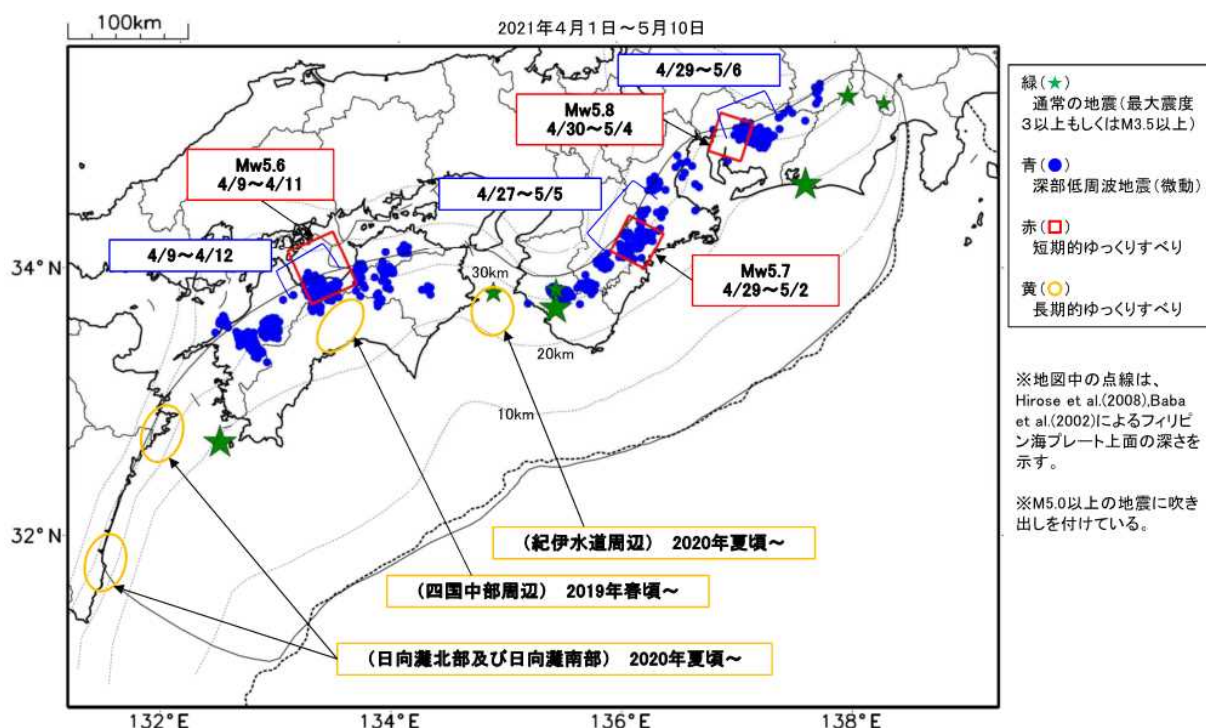
気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

令和3年5月12日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果（概要）】

南海トラフ地震の想定震源域では、プレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....【東海】気象庁の解析結果による。【紀伊半島北部、四国中部】産業技術総合研究所の解析結果による。
長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺、紀伊水道周辺、日向灘北部及び日向灘南部】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<http://www.jma.go.jp/jma/press/2105/12b/nt20210512.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ（URL）をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

地震活動図「震央分布図、M-T図（地震活動経過図）」について

大地震が発生すると、気象庁はその地震について詳細に取りまとめた「地震解説資料」を作成し、気象庁ホームページにも掲載します。「地震解説資料」には地震を説明するため、多くの場合に地震活動図が用いられます。今回は、地震活動図（震央分布図、M-T図）について説明します。

震央分布図（図1、図2）

震央分布図は地震が発生した場所（震源）を表示したものです。地震の規模を表すマグニチュード（以下「M」と記す）をマークの大きさで表します。

図1、図2では1998年1月1日から2021年5月10日までに発生した、M1.0以上、深さ0~25kmの地震を描画しています。2021年5月1日以降の地震を赤色で、主要な活断層を黒色の太い線で表示しました。領域aでは期間中、今回（5月5日、6日）の地震の他にも地震（M1.0以上）が発生したことが分かります。

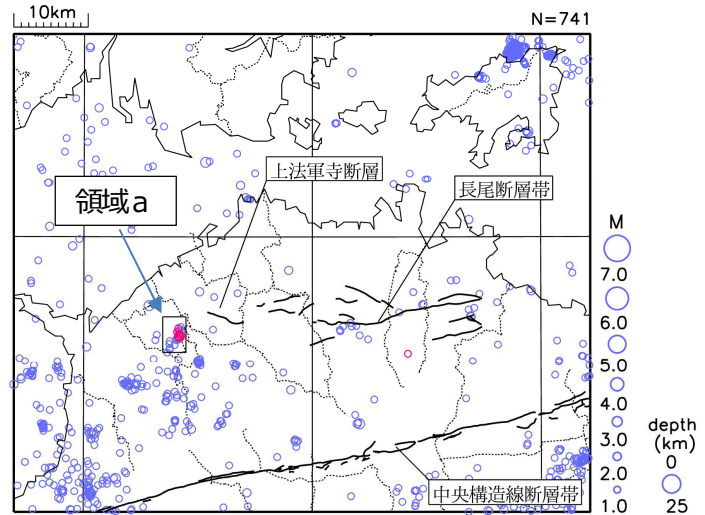


図1（上図）震央分布図

1998年1月1日~
2021年5月10日
に発生した、
深さ0~25km
マグニチュード1.0以上の
地震
2021年5月1日以降
の地震を赤色で表示

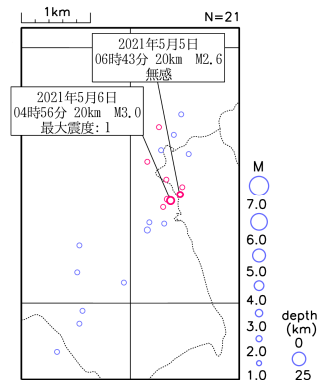


図2（右図）領域aの拡大図

M-T図（地震活動経過図：図3、図4）

M-T図のMはマグニチュード、Tは時間のことです。図の横軸は時間を表し、右へ行くほど時刻が新しくなります。個々の地震が発生した時刻に地震を表す縦棒のマークを付けます。図の縦軸はMを表し、縦棒の背が高いほど、Mが大きいことを示します。縦棒が密集しているところは地震の発生間隔が短いことを示します。

M-T図に、地震発生数の積算値グラフをつける場合もあります。

図3を参照すると領域aでは期間中、今回（5月5日、6日）の地震の他にも1-2年に1回のペースでM1から2の地震が発生したことが分かります。

全国で最大震度5弱以上を観測する地震が発生した場合は、「地震解説資料」が気象庁ホームページに掲載されます。

「地震解説資料」には「地震の概要（地震活動の発生時刻・M・震源の深さ・観測した震度等）」、「防災上の留意事項」等が掲載されます。

「地震解説資料」の掲載場所は次のとおりです。

気象庁ホームページ → 各種申請・ご案内
→ 報道発表・情報公開 → 報道発表資料

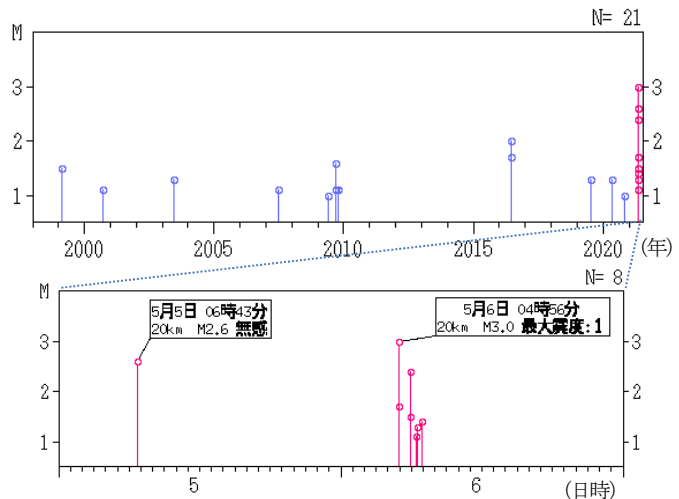
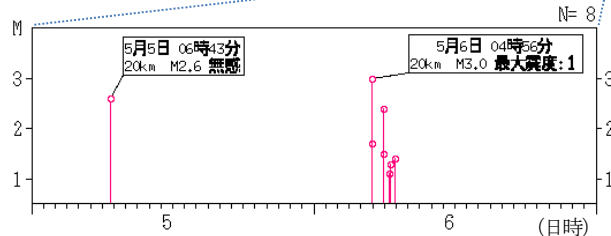


図3（上図上）領域aにおけるM-T図

図4（上図下）2021年5月5日~6日のM-T図



<https://www.jma.go.jp/jma/press/hodo.html>